

【ロンドン共同】国際非政府組織（NGO）オックスファムは20日、世界で貧富の差が拡大し、最富裕層85人の資産総額が下層の35億人分（世界人口の半分）に相当するほど悪化したとの報告書を発表、22日からの世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）を前に、累進課税などの対策に取り組むよう政財界の指導者らに呼び掛けた。

報告書は、人口の1%を占める最富裕層が世界の富の半分を握っていると分析。データを得た26カ国のうち日本を含む24カ国で、全国民の収入に占める上位1%の最富裕層の割合が約30年前に比べて増加

「世界の、約0.000001パーセントの人の資産総額が、約50パーセントの人の資産総額に等しい、ことになるようである。」(小谷行雄付記)

富裕層 85 人で 35 億 人分

したと指摘した。

リーマン・ショックに見舞われた米国では、下層の90%は経済的に苦しくなったが、上位1%の最富裕層は危機後の2009～12年の成長による利益の95%をかき集めたという。オックスファムは格差を是正するため、累進課税のほか、租税回避の中止や、従業員の生活賃金の確保、持続可能で公平な成長に向けた市場の規制強化などを訴えた。

【ダボス（スイス）共同】国際労働機関（ILO）は20日、2013年の世界の失業者数が推計で前年比490万人増の2億180万人、失業率は前年と同じ6.0%だったとの報告書を発表した。金融危機後、米国などで緩やかな景気回復が続いているが、世界的な雇用情勢は回復が進んでいないことが示された。

資産格差拡大失業者

2 億 人突破 若者が深刻

ILOは、このまま推移すれば18年には世界の失業者が2億1500万人を超えると警告、厳しい雇用情勢が今後も続くともみている。

特に若者層が深刻で、13年の15～24歳の失業者は前年比70万人増の7450万人、失業率は13.1%と高い水準を維持している。

またILOは、1日1.25ドル（約130円）未満で暮らす就業者が世界全体の11.9%に当たる約3億7500万人に上ると指摘し、世界的な「ワーキングプア」の問題を強調した。